



広報

ごじょうめ

主な内容

- 磯ノ目フラワーライン日本一に…2・3
- 年末の交通安全運動展開中…4
- ふれあい広場…6
- スポットニュース…7
- 五城目の地名散歩…10



貞光さんの作品

七十年の歴史を誇る「渡辺印舗」の二代目、三代目として印章を彫り続けている渡辺貞光・辰美さん親子。父親の貞光さんはこの道四十一年のベテラン。「毎日仕事をしていても、これでいいということはありません。死ぬまで修業です。自分が誠心誠意込めて彫り上げた印鑑を、みなさんが大事に使つてくれていると思うとうれしい。自分の黒いちは彫り続けます」と語り、息子の辰美さんは、「この町からハンコ屋を無くさないよう、父の後を継いで、しっかりと守っていきたい」と力強く語ってくれた。

御印師
渡辺 貞光・辰美さん
(古川町)

No. 601

昭和63年(1988年)

12月1日

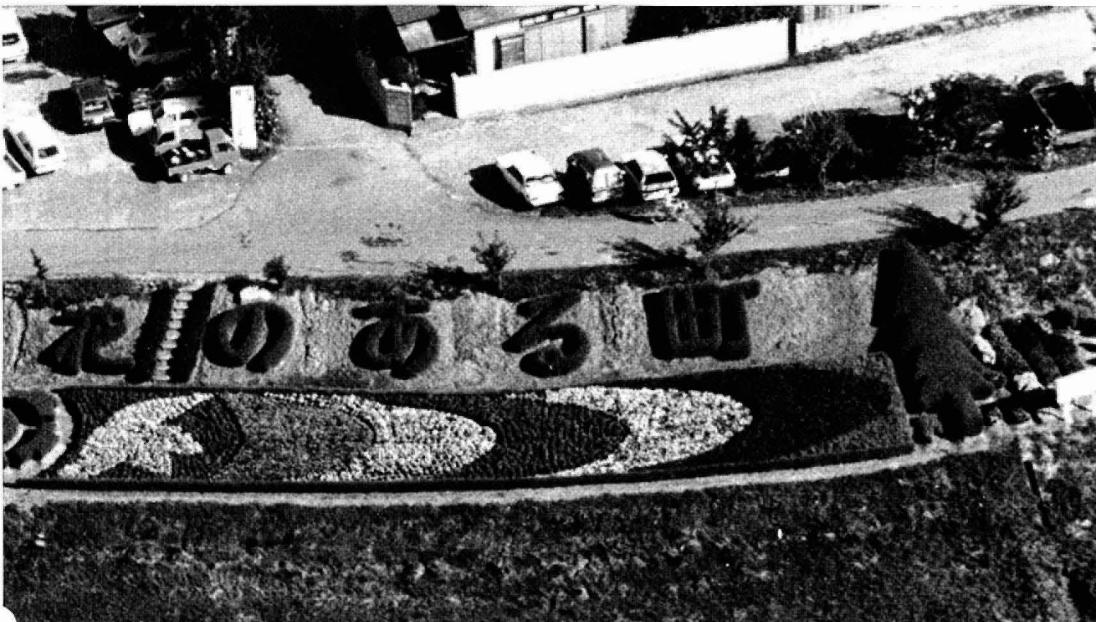
(毎月1日・15日発行)

発行／五城目町

編集／文書広報課 0188(52)2100代

印刷／湖東印刷所 0188(52)2430

全国花いっぱい
コンクール



除草風景



苗の植栽風景



11月21日、秋田県花いっぱい運動の会会長の小畠好子さんが役場を訪れ、町長に賞状と記念品を手渡しました

機ノ目フラワー・ライン 日本一の花だんに 内閣総理大臣賞を受賞

十月二十五日に行われた第二十五回全国花いっぱいコンクール（日本花いっぱいの会、毎日新聞社など主催）の中央審査で、本町の馬場目川河川敷花壇推進委員会が手塩にかけて造成した「機ノ目フラワー・ライン」が、「職場・地域の部」で内閣総理大臣賞を受賞、日本一の花だんとなりました。

本町の「花いっぱい運動」は、昭和三十六年の秋田国体を契機に始まり、年々、全町にその広がりを見せてきました。

「機ノ目フラワー・ライン」は、花いっぱい運動の一層の広がりと馬場目川河川敷の美化を目的に、六十一年に馬場

目川の五城目橋上流に造成されました。三年目の今年五月には、中央公民館を中心に町中央部の町内会、老人クラブ、婦人会園芸クラブなどをメンバーとする馬場目川河川敷花壇推進委員会を結成。今までより川下へ二十メートル延長し、長さ百メートル、幅十メートルの県内最大の花だんの誕生となりました。

「祝交換会」「山と川・城と花のある町」とコキアの「花文字」が遠目にもくっきり見える「機ノ目フラワー・ライン」は、コキアの町章をペゴニアの白で描いた鳩が支えていて、その両側をマリーゴールドの黄色、サルビアの赤と白、ビクトリアの紫で波紋を表わし、平和の広がりを表現。両端にはコキアで秋田杉を形どり、伸びゆく姿を表わしています。

また、千平方メートルを誇るこの花だんには、三年間で客土百三十二トン、堆肥八十トンが投入されました。花だんの管理は推進委員会が中心となつて行っていますが、花苗の植え付けや除草などには、老人ホームや率浦大学・同大学院、近所の方方も積極的に協力をしており、今回の受賞は住民パワーの勝利。中央公民館では、「町を花で美しく飾りたいという町民の気持ちが認められてとてもうれしい。来年以降も、花のある町づくりを一層推進したい」と語っていました。



内閣總理大臣賞を受賞した
磯ノ目フラー・ライン

(航空写真)



花の証

本町の花いっぱい運動への取り組みは早く、今では全町内で、百二十におよぶ団体で花だんづくりを実践している。できればそのモデルとして、また、河川敷の美化をねらいに、六十一年度から河川敷へ花だんづくりを始めた。そして、三年間山砂と堆肥を大量に投入して土づくりをし、約一千平方メートルの花だんの基礎づくりをした。

配し、その両側に平和の鳩を表わして町章を支えるなど、配色を考えながら波紋状に草を植え、町の飛躍・発展をえた。

賞（県知事賞）を受け、全国審査へと進み約八百近い出品数の中で、頂点である内閣総理大臣賞を受賞することができました。

これはひとえに、推進委員会員はもとより、高齢者学級生、老人ホームなど関係各位のご奉仕によるもので、深く感謝申し上げ、今後とも町の花いっぱい運動のはずみとしなお一層の努力をつづけていきたいと念じている。

和達大川小学校で毎年
春になるとたくさんのお花の苗
を植えます。大きく、きれい
に育つよう心をこめて大事に
大事に植えました。暑くて汗
がダラダラ流れていることも、
足やこしがつかれていること
も、みんなすっかり忘れてや
つてはいるのが不思議なくらい
がんばってやりました。その
がんばりが実ったのか七月に
なると、とってもきれいな花
ばかり花壇をいっぱいにして
くれました。水かけも朝、学
校にきたらすぐやつて、草取

りも学級全員が力を合わせて
がんばりました。

日に日に大きくなつて、花壇の土が見えないくらいになりました。夏休み中も順番で水をかけに行きました。草取りもやつたせいか夏の暑さに負けずになりました。

私は、今まで家族に育てられてきました。私が花の苗だったとすると、小さいころから栄養をあたえてくれたり、ささえてくれた土が母です。時にはやさしい日ざしを送つてくれたり、時にはきびしい日を照らしたりする太陽が父です。必要な能力や体力をつけてくれるのが水です。

どれをとっても、私にはかかせないものばかりです。花は土や日光、水がないと生長しないと同じで、人間が成長していくうえにも必要なものはたくさんあると思います。

私達が苗を植える時、一気に土をなるべく深くほって出したりして花が、かれててしまうかもしないからです。」
「どうでないと強い雨が降つたりすると根が土から出たりして花が、かれてします。」
「どうでないと強い雨が降つたりすると根がじょうぶに育つようになりいろいろ工夫をしたり堆肥や肥料をさつたりしてがんばりました。」
「これ以上に私達の父や母もまだ達をじょうぶにするためにつしようけんめいに働いたんだと思ひます。」
「花は、気持ちが落ち付かない時やかなしい時でも、心地やさしい気持ちにしてくれ、明るい気持ちにしてくれます。それに自分達が生えた苗が花をいっぱいに咲かせているところを見ると達感でいっぱいとつても

人間の一生は長いですが、花の一生は人間とくらべたらとっても短かいと思います。私が苗だったとしたら、まだつぼみも出てないところか、やつとつぼみがでてきたころだと思います。私は、花はすごい力を持っていると思います。わけは、自然のきびしい力にたえながら生長しているということ、人間の心に見ただけで花への強い印象を残せるとのこと、短かい一生の中で力いっぱい生きているということなどです。私は、これから成長していきますが、つぼみのまま終わらないように自分の心の中に大きな、きれいな花をさかせるようにこれから力いっぱいがんばっていきたいです。

昭和六年
五城目町花いっぱい運動
推進作文募集

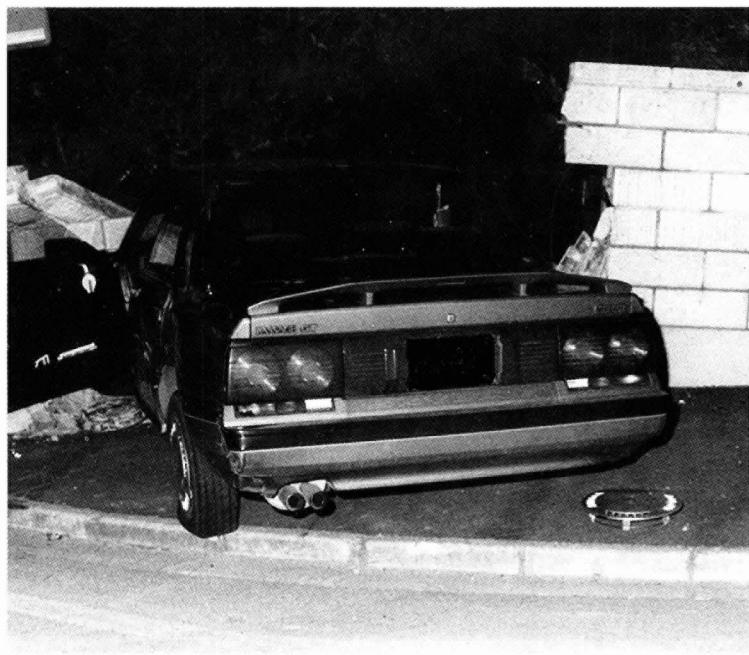
天賞

大川小学校 六年
加藤 夏子

私達が苗を植える時、一
氣を付けたことは根を弱くし
いということです。そのたま
に土をなるべく深くほって根

人間の一生は長いですが、花の一生は人間とくらべたら
とても短かいと思います。

死亡事故が増えていきます 年末の交通安全運動展開中



プロック塀に激突。車は前部を大破

県警では、十二月一日から「年末の交通安全県民総ぐるみ運動」を展開し、この時期に増加する飲酒運転などによる交通事故防止を呼びかけています。

別表でもわかるように、一月二十四日現在で、去年より県内の死者が十九人も増加しています。

日末の交通事故防止を呼びかけています。

不注視▽安全速度違反▽飲酒による前方不注視▽安全不確認▽暴走運転となっています。

そして、これらの死者は事

故後二十四時間以内の統計数

字で、二十四時間を過ぎて亡

くなつた方を含めると、倍近

い数字になるものと推定され

ています。

師走になり、気ぜわしい毎

日ですが、こういう時にこそ

心にゆとりを持ち、安全運転

を心がけたいものです。

家庭の崩壊と引きかえ
それでもあなたは……

飲酒は、自分で気付かな

いうちに自制心や判断力に大き

く影響をおぼします。

自分勝手に、お酒一合まで

なら、ビール一本くらいなら

といった安易な甘えの果てが、

つながったケースはめずらし

くありません。

あなたは、自分の地位と名

誉を捨て、家庭の崩壊と引き

かえにしてまで、そんな道を

選びますか――。

あなたは、自分の地位と名

誉を捨て、家庭の崩壊と引き

かえにしてまで、そんな道を

選びますか――。

十日二十四日、NTT五城目電報電話局職員のみなさんから、福祉事業に役立てほしいと町へ七万円が寄付されました。

これは、職員のみなさんが創立記念として支給された手当をまとめて寄付したもの。町ではこの寄付金を、緊急通報システムなどの福祉事業に役立てることにしています。

善 意

町へ栗山の掛軸を寄贈 稻川町の日野喜代志さん

喜代志さんが、去る十一月二日役場を訪れ、館岡栗山画伯が描いた掛軸を寄贈してくださいました。

稻川町の日野喜代志さん



寄贈された栗山の掛軸と日野さん

この作品は、石山寺を描いたものです。日野さんは、「栗山画伯の故郷、五城目町で保存していることが望ましいと思つたからです」と寄贈の理由を述べられていました。

ただ、多くの人びとに供観することが望ましいと思つたからです」と寄贈の理由を述べられていました。



町長へ寄付金を手渡す小松局長さん

(株)イトマン

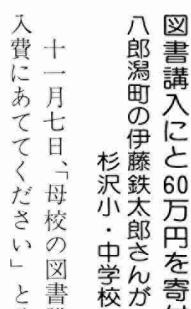
馬川地区公民館へ上敷を寄贈

十一月十二日、株式会社イトマン(代表・伊藤万治郎さん)から馬川地区公民館へ八畳間の上敷四枚が寄贈になりました。地区のみなさんはこの寄贈にたいへん感謝しており、今まで以上に快適に公民館を利用できると喜んでいます。



藤井校長へ寄付金を手渡す伊藤さん

同小・中学校では、図書購入費が少ないと、今回寄付に大変感謝しており、早速この寄付金をもとに「人文学習事典」や「ジュニア版地球大紀行」などの事典をそろえるほか、児童・生徒から読みたい本のアンケートをとつたうえで図書をそろえ、伊藤文庫として活用する予定です。



図書購入にと60万円を寄付
八郎潟町の伊藤鉄太郎さんが
杉沢小・中学校へ

十一月七日、「母校の図書購入費にあててください」と八

郎潟町の伊藤鉄太郎さん(六十八歳、八郎潟町議会議員)から、母校の杉沢小・中学校に六十万円が寄付されました。伊藤さんは、杉沢尋常小学

校の卒業生。つのる母校への思いと、お世話をなつた恩返しをしようと立つたのが昭和四十七年。今年の十一月には、このために積立てた預金が五十万円を超えて、約十万円を足して六十万円ちょうどを寄付したものです。

同小・中学校では、図書購入費が少ないと、今回寄付に大変感謝しており、早速この寄付金をもとに「人文学習事典」や「ジュニア版地球大紀行」などの事典をそろえるほか、児童・生徒から読みたい本のアンケートをとつたうえで図書をそろえ、伊藤文庫として活用する予定です。



若さの秘密

わたしの場合

プロゴルファー

中村 寅吉 (下)

「六十歳を過ぎてしまつたけど、これからゴルフを始めるのはどんなものだろうか?」

こんな相談をときどき受けたが、おおいにやりなさいと大賛成するね。会社を退職してただ家でゴロゴロしてゐるよ。第一ね、ゴルフという目的を持つと気がついたことは、緑の芝生を歩くだけでも、健康にいいに決まつてゐる。

それで、だんだん熱中してるので、だんだん熱中してあるつてことだよね。反対にわけだ。これは何より若さがある。

山登りや特打ちで 足腰を鍛える

私は小さかつたから、重いバッグをかづぐと左右の肩を怒らして歩いちやう。それを、「おまえは威張つて歩いちやダメだ」と、ちゃんと教えてくれた人がいたんだ。

そんなのしようがないじやないかとそのときは憤慨したけど、プロになつてからよくわかつたね。

どんなときも虚心坦懐で、おこつた顔をしちゃいけないことが……だからね、どんなときも、「中村さん、そりやあ、ますいよ」と注意されたら、「ああ、そうですか、ありがとうございます」とうございます」

**若いもんには
負けられない**

だけど、そのためには体力

くるとね、もう目つきが違つてくる。今度はあの人を負かしてやろう。そのため意欲が湧く。努力して前進する私のキャディー時代は、ゴルフをするのは、ま、社長さんとか侯爵とか、そういうハイクラスの人が多くつた。

おかげさまでね、ほとんどのときかな、胆石で一週間ほど入院したことがあるけど、

と感謝しちゃうねえ。

いくつになつても、謙虚さと素直さを保ち続けられるのが、やっぱり若さじゃないかあと、このごろ思うんだよね。

いくつになつても
謙虚さと素直さを

いまでも三十代
気持ちは

を維持するための努力はしてあるよ。足腰を鍛えるために山登りをし、三百個入りのかごを今日は一箱半打てたら、明日は二箱打つてやれと、自分の体を痛めつけるわけだ。でもね、年をとれば経験があるんだから、できることはない。いつもそう思つてるんだ。まだ記録に挑戦したいね。(談)

中村寅吉氏略歴

（なかむら・とらきち）

大正四年九月十七日、

神奈川県生まれ、七十三

歳。昭和九年、プロ・テ

ストに合格。昭和三十二

年のカナダ・カップで個

人・団体優勝し、戦後のゴ

ルフブームに火をつけた。

日本オープン三回、日

本プロ四回、関東オーブ

ン七回、関東プロ三回な

ど数々の大会に優勝。

いまなおプレーに情熱

を燃やし、昭和五十六年

の関東プロで“65”のエ

ジ・シュー。以後、通算

三回のエージ・シュー

を達成。樋口久子、安田春

雄らの多くのプロを育て

“トラさん”的愛称で多

くの人々に慕われている。

御歳暮には
ふるさとの香り漂う
清酒 五城目城
をどうぞ!!
酒専門店
タカツ
五城目町中央通り ☎ 52-2262

腰痛
苦しい腰痛の方ご相談下さい。
良く効く貼り薬のサンプルさし
上げます。
◎無料の血圧計もご利用下さい。

五城目 **中央薬局**
五城目町市場通り ☎ 52-3217

ふれ あい 応場

おうほの
自慢つこ

脇乙町内会

田中英作



花はいつ見ても美しい。

つい先頃まで、色とりどりの花で埋まつたコスモスロードの中央に位置する我が

脇乙町内は、後ろに小嵐山を前は薬師の山をいただき、町内の長さは町一番です。

そして、今は老木化した小嵐山の桜ですが、年年歳歳花を咲かせてくれ、道行く人の心を和ませてくれます。

また、町村合併の際、町から買い受けした山が今では立派な美林に育ち、水源涵養林として、また農家経

濟の一助として役立つまでになりました。町内の活性化と体力づくりのため、町内中央の山裾を借り受け、運動広場を造成しました。この広場は、町内会員が提供したもので、中央にはゲートボール場を一面設けてあります。

今までには、町内会のイベントである早苗振運動会を、

小学校のグラウンドや町道

の一部を利用して催してい

ましたが、今度からは広場

を利用し、心行くまで羽ば

たくことができます。また当町内では、長男で結成している小嵐山桜会があり、毎月講師をまねいて学習に励んだり、スポーツに精を出し町内の活性作りに努めるなど、頼もしい限りです。

今後は、私達の育成した

共有林に力を注ぎつつ、各

種の会の融和と会員の幸せ

はもちろん、町の発展にも

寄与するため、会員挙げて

取り組んでいる我が脇乙町

内会です。



新入会員のアーネスト・サンダーさんを中心記念撮影



年末年始のご贈答は



電話一本配達OK

Liquor & Foods
CVS あうかわ
☎ 52-3903

《幸せづくり 夢づくり 地元と共に60年》



冬の「ボーナス」
ことしも「しんきん」

まごころかよう

五城目信用金庫

本店☎ 52-2115代・八郎湯支店☎ 75-2544代・若美支店☎ 0185-46-2315代・飯島支店☎ 45-8024代

グループ 訪問 川柳すずむし吟社

(主幹 荒川紫陽花さん)

楽しんでいます。

定例会は毎月二十日。前もつて出された宿題に、当日それぞれが苦心作を持ち寄って選をし、互いに研さんを積んでいます。

会の活動は活発で、特に本町で開かれる東北親善川柳大会には、東北各地から大勢の川柳愛好者が参加しています。また、毎月発行している『川柳すずむし』は、県内でも数少ない川柳誌で、十二月で一五六号を数えます。

この会は昭和十年に誕生しました。創設者は故渡辺銀雨氏と、土崎の故貝田乱声氏。五十三年の長い歴史を持つこのグループは、戦時中の苦しい時代も、会員一人ひとりが川柳の心を灯し続け現在に至っています。発足当時十四、五人だった会員が今では二十二人に。年齢も三十三歳から七十五歳と幅広く、みなさんが関係なく、和氣あいのムードの中で川柳を

と抱負を語ってくれました。

主幹の荒川さんは、「銀雨さんが築いたこの吟社を、同人一同協力して今以上に発展させ、すずむし吟社の名を全国にとどろかせたい。また、老若男女が楽しんで川柳をつくる、そんな会にしたい」と抱負を語ってくれました。

・世代間交流に300人を超す人出

大川地区住民慰安大会

大川地区住民慰安大会は、11月13日(日)午前10時30分から、大川小学校の体育館を会場に開催され、多彩な出し物に300人を超す参加者から盛んな拍手が送られていました。

この催しは、子どもからお年寄りまでの交流が少なくなってきた現状をふまえ、園児から高齢者までが一緒になり、世代間交流を図ろうと、毎年開催されているもの。

当日は、主催者や来賓のあいさつに続き、大川保育園児による“うた”で幕があき、地区の小学校、若妻会、婦人会、老人クラブなどの出し物が次から次へと発表されました。

主催者である大川地区公民館長の佐藤良治さんは、「今年は県種苗交換会が本町で行われたので、開催直前までどうなるか大変心配でしたが、皆さんのご協力により、盛会に終えることができました。これからも地区の方々と手をとりあいながら、大川がさらに住みよい所となるよう頑張りたい」と話していました。



熱心に講習を受ける受講生のみなさん

雀館線完成と部会設立を祝う 岩野入口前

いわのむらづくり推進部会

岩野入口前の都市計画道路雀館線の完成と、いわのむらづくり推進部会（部会長・猿田日出男）の設立を祝うテープカットと祝賀会が、11月20日(日)、町関係者や住民多数が参加し盛大に開かれました。

まず、道路の完成を祝うテープカットは午後3時から、岩野入口前で行われました。大勢の住民が見守る中、町長や地元代表者らがはさみを入れると、一斉に拍手が湧き起っていました。

また、午後3時30分からは、岩野公民館で祝賀会が行われ、道路の完成と推進部会の設立を祝い合いました。

いわのむらづくり推進部会は、生垣班、まつりごと班、環境整備班の3班で編成されており、快適な岩野らしい環境づくりを住民一体となって進めようと発足したものです。



拍手喝さいをあげた青年会員による“天とう虫のサンバ”

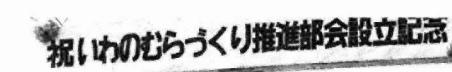
手づくり年賀状に20人が挑戦

一年賀状印刷講習会

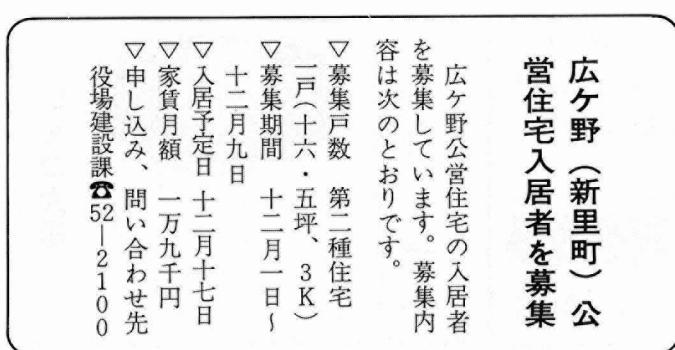
内川青年会主催の“年賀状印刷講習会”が、11月13日と20日の2日間、内川地区公民館を会場に開かれ、約20人の受講者が手づくりの年賀状に挑戦しました。

これは、孔版印刷による心のこもった手づくり年賀状で、新年のあいさつをしようと実施しているもので、今年で6年目。秋田孔版学友会の協力を得て毎年開催しています。

指導の先生からテキストを受け取った受講生は、干支(えと)の図柄作成からスタート。ほとんどが初めての手作業とあって、なかなかはかどりませんでしたが、印刷を重ねるにつれ年賀ハガキが彩られ、完成したのは窓の外が薄暗くなった頃。受講生は、お互いの作品を見せ合いながら、手づくり年賀状の完成を喜びあっていました。



テープカットする町長や地元代表者ら



おしらせ

コーナー

大川地域づくり懇談会を開催
12月4日、午後1時

大川地区公民館主催の「大川地域づくり懇談会」が、次
の内容で開催されます。

▽日時 十二月四日(日) 午後1時

▽場所 農村環境改善センター
▽内容

昭和64年度県立中央高等
技術専門校の生徒を募集

県立中央高等技術専門校では、昭和六十四年度の生徒を募集しています。内容は次のとおりです。

▽募集人員

電子機械科(一年)二十名

電気制御科(一年)二十五名

自動車整備科(二年)

二十五名

OA事務科(一年)二十名

情報技術科(二年)二十名

△受付期間

十二月一日～十日

△応募資格

高等学校卒業者(昭和六十年三月卒業見込み者を含む)またはこれらと同等以上の学力を有すると認められる方

△選考日および選考場所

秋田市飯島穀丁三一

十二月十六日(金)

県立中央高等技術専門校

△問い合わせ先

県立中央高等技術専門校
電話 45-118228

△募集定員

九十五人

△対象地域

大川地区

△内川保育園

△募集

字(あざ)の類型分類 - 7

石川富司
(館町)



熊ノ堂下（元・山田村）から望んだ立石神社の森と折渡沢（現山田沢の一部）

本町には熊ノ台（高崎）と
熊ノ堂下（上樋口）の熊の字
地名があるが、そのうち後の
熊ノ堂下について述べてみた
い。
熊地名の語源には河川と関
係した氾濫の意味と熊野信仰
から来た意味がおよそであ
るが、この熊ノ堂下の熊は信
仰と先住民の山田氏（隣地が
山田沢）と深くかかわってい
るので、その面から目を通し
ていこう。

今は弓道場が出来たり整備されたが雀館は佐竹藩主の鷹狩りの場合の涼み台であったこと。その下（町営住宅脇の湾曲部）の田は元樋口村の本田堤（堀切ともいつたという）であつたことを述べておこう。小字には折渡沢、盜人沢、八森沢、立石下、宝線渡沢、鳥屋長根、堤下の外、折渡沢の東側には上、下石坂がありさらに才ノ神、鷹待場、一本松の名を見逃すことはできな

開発された山田沢の上には
溜池があり、右側の林地はご
承知の鳥獣保護センターのあ
る野鳥の森(保全林)があるが、
この山田沢は、元は官民有地
混在の場所で、今では耳に聞
くこともなくなつた旧小字の
名前が当時の文献に見られる
のである。

その小字を後に紹介してお
ることにして、まず山田村は

に居住される亡猿田政夫氏先祖、山田氏が開発した字山田沢の続き地で、山田村といわれた集落のあつた所である。写真に見られる小森がその山田氏の氏神、熊野大権現を祭祀している立石神社の旧跡である。このいわれから字熊の堂下があるのである。

五城目の地名散歩

17

おたんじゅう
おぬどじゅう



堀 星子ちゃん

后 生 子 (7)

伊藤重蔵	児玉夕エ	新町	72歳	10月3日	落合	10月21日
浅見内	小林テツエ	築地町	58歳	10月5日	一番町	10月23日
中川原	近野勇太郎	鳥井志保子	49歳	10月9日	上山内	10月28日
10月13日	68歳	石井健次郎	45歳		合地	10月14日
	(敬称略)	鎌田ハツエ				
		工藤憲哉				

町の人口と世帯

11月1日現在

人 口 15,018 人 (- 4)
 (男) 7,139 人 (- 2)
 (女) 7,879 人 (- 2)
 世 帯 3,922 世帯 (- 1)
 ※ () 内は前月との比較

江藤寛俊	誠・富貴子	長男	10月9日
小松真世	淳・圭子	長女	10月12日
鷲谷軍馬	一哉・美代子	長男	10月12日
畠山貴文	一雄・さだ子	長男	10月12日
石川佳佑	長男	10月13日	10月13日
畠山貴文	一成・幸美	長男	10月14日
正文・千世子	長男	新里町	10月14日
八田石貴文	勝子	上山内	10月14日
松橋広也	光明・勝子	平ノ下	10月15日
薰・咲子	二男	大川四区	10月21日
石井龍世	幸子	小川口	10月22日
安彦・真智子	長男	富田	10月23日
石井麻衣	長男	今町	10月27日
藤はなえ	二女	田町	10月29日
原田ちひろ	喜啓・靖子	富田	10月30日
俊男・順子		(敬称略)	